2019 年度実施概要

学校名

羅臼町立羅臼小学校

採択活動名

こんぶ図鑑をつくろう

取り組みの概要

私たちの学校は山・川・海が結びついた大自然，世界自然遺産の知床の中にある。

そこで総合的な学習の時間や生活科の中で，「知床学（海洋学)」として自然に関することやふるさと羅臼に関する様々な学習を行ってきた。その中で，特に一昨年度から取り組んでいる，昆布について調べ図鑑を作ってまとめる「こんぶ図鑑を作ろう！」という学習に力を入れてきた。今年度は昨年度の５年生の学習を生かしながら，「羅臼の昆布業は続くのか？」を探るために「生態」「自然環境」「昆布業」「宣伝・商品開発」「消費」の５つのグループで学習を進めてきた。

図1　昆布漁師の方から「ひれ刈」の方法を教えていただきました。

「生態」グループでは，昆布が海中でどの様に育っているのかを調べ，これから昆布業が続くためには，昆布が育ちやすい環境を守っていくことが大切という結論を出した。

「自然環境」グループでは，昆布が育つ自然環境を調べると今後も昆布をとれるかがわかるという予想を立て，昆布の生育に適した気温や水質について調べ，今の自然環境が維持できれば昆布業は続くという結論を出した。

「昆布業」グループでは，どのように続いてきたのかと仕事の工夫について調べ，続くかどうかわからないけれど、仕事の内容を次の世代の人にしっかりと伝え、昆布漁師を増やすことで，羅臼の昆布業を続けていけると考えた。

図2　水質検査をする児童たち

「宣伝・商品開発」グループでは，羅臼昆布の販売の工夫について調べ，現在イベントや宣伝を通して羅臼昆布の魅力を大切に思う人を増やしているので昆布業は続くと考えた。

「消費」グループでは，消費者の方が羅臼の昆布のことをどの様に考えているか知ることで昆布業が続くかどうかわかるのではないかとい

う予想を立て，町外の観光客の方の意識を調べ，様々なところに羅臼昆布を求める方がいるので，昆布業は続くという結論を出した。

　この学習を通して児童は，羅臼の昆布業が続いていくためには，自分たちに何ができるか考えることが大切であるということに気づくことができた。また普段生活している自分たちの故郷が，海からの豊かな恵みの恩恵を受けていることを改めて感じその豊かさを未来へつなぐ大切さについても考えることができた。

活動中の写真

デジタルデータにて 2～3 枚の添付をお願いします。

実施単元名　※実施した単元の数に応じて記載してください

１．５年　こんぶ図鑑を作ろう